

越谷市新庁舎建設基本設計業務委託プロポーザルの審査講評について

越谷市新庁舎建設基本設計業務委託

プロポーザル審査委員会 委員長 武藤 繁雄

越谷市役所本庁舎については、耐震性、狭あい化など様々な課題を解決するため、「越谷市本庁舎建設基本計画」を策定しました。その後、昨年4月以降に発生した熊本地震を受けて、市民サービスの拠点、災害復旧のための情報発信拠点等としての役割を十分に果たすことができる新庁舎の早期実現に向けて、整備規模の縮小など基本計画の改訂を行いました。

この基本計画に基づく基本設計の実施にあたっては、計画の理解度が高く、その趣旨に基づいた設計ができ、かつ設計の過程において、市民、議会及び行政の考え方に柔軟に対応できる豊富な実績と確かな技術力を持った者を公募型プロポーザルにより選定を行いました。

一次審査では、参加表明のあった3者の設計実績、技術者の技術力などについて客観的に評価を行い、業務実績等に申し分がないことから、すべての者を技術提案書の提出者として選出しました。

その後、12月26日に開催した二次審査では、技術提案書の内容について、的確性、創造性、並びに実現性の観点から、書面並びにプレゼンテーションにより評価するとともに、設計工程計画、業務実施方針、取組意欲・基本計画の理解度及び参考見積価格を勘案して総合的に審査を行いました。その結果、総じてバランスがとれており、実現性の高さが評価された株式会社 梓設計を最優秀者として特定しました。

最優秀者の提案内容は、業務実施方針におけるキャッチフレーズとして「中核市・越谷の新たな拠点となる『人・環境・歴史・安心』をつなぐ庁舎」を掲げ、新本庁舎に「水郷テラス」や越ヶ谷宿のデザインイメージを取り入れるなど様々な観点からの提案がありました。

環境対策では、ライフサイクルコストの縮減を光熱水費の削減率に加え、CO₂の削減率を数値化する提案に説得力が認められることや、執務空間では、西側にコアを集約した柱の制約のないワンルーム空間により、様々なレイアウトに対応可能となる「フレキシビリティを重視した『ワンルール執務空間』」と「開放性と独立性を兼ね

備えた『議場と展望ロビー』」などから、市民に開かれた庁舎のイメージが感じられました。

また、ウッドデッキ、藤だな通り、（仮称）市民協働ゾーンを一体化する「まちのひろば」の提案では、市民が憩える賑わいある空間の創出が期待できる内容でした。

さらに、地震時の安全性を確認できるモニタリングシステムや執務室の無天井化など、業務継続計画の趣旨に配慮し、災害対策本部としての機能を発揮する庁舎の重要性の考え方について高い評価がされました。

次に、取組意欲・基本計画の理解度においては、プレゼンテーションの説明内容から基本計画に込められた想いを汲み取ろうとする熱意を感じたことや、各委員からの質疑にも懇切丁寧に対応する姿勢などから、基本設計を進めるうえでのパートナーとして最適者であると感じることができたことなどから、総合的に最優秀者として特定をしました。

いずれの提案についても豊富な設計実績と経験に裏打ちされた確かな技術力による独創的で創意工夫が感じられる非常にレベルの高いものでした。

最後に、本プロポーザルに参加され、貴重な時間を費やして真摯に努力いただいた関係各者に心より感謝いたします。

また、最優秀者を審査する過程で議論された様々な委員会での意見を考慮しつつ、今後、最優秀者の技術提案書で掲げられた「中核市・越谷の新たな拠点となる『人・環境・歴史・安心』をつなぐ庁舎」と越谷市本庁舎建設基本計画で掲げた「越谷市民の安全・安心な暮らしを支える 親しみのある庁舎」となるよう越谷市新庁舎が立派に整備されるよう職員一丸となり努力してまいります。